
嘔吐物の処理方法の一例

H30.10時点での処理方法です。必要時には随時、加筆修正いたします。



消毒の範囲

蛍光塗料を用いた疑似嘔吐物
飛散実験を行ったところ・・・

この時の
飛散距離は
3.5m
でした！



**吐物の中心から半径約2～3m程度の範囲を
目安に消毒しましょう**

吐物の性状や嘔吐した高さ、どこに嘔吐したかなどで汚染範囲は変わります。

**他の人が嘔吐物に近寄らないよう配慮し、
窓を開けるなど換気を十分に行いましょう**



消毒セットを準備します

- ☐使い捨て手袋(一人2組)
- ☐使い捨てマスク(一人1枚)
- ☐使い捨てエプロン(一人1枚)
- ☐足カバー(一人一足)

これらのセットは、嘔吐発生時、すぐに対応できるように、複数箇所に保管しておきましょう

- (レジ袋でも代用可。作業中に外れないよう、手持ち部分を縛って使いましょう)
- ☐キッチンペーパー4本(新聞紙で処理する場合は朝刊5~6日分)
 - ☐バケツ大1個
 - ☐ビニール袋 大2, 小1
 - ☐次亜塩素酸ナトリウム+ペットボトル(2L×2本)
- (0.1%濃度の消毒液=2Lペットボトルに5%原液40ml+水道水を入れて2lにする)
- ☐ペーパータオル(適量)
 - ☐新聞紙(6枚程度)

手袋(2枚)・エフロン・マスク・足カバーを着用します

マスクは鼻と顎を覆い、
プリーツを下向きにする

髪は落ちてこないように束ねる

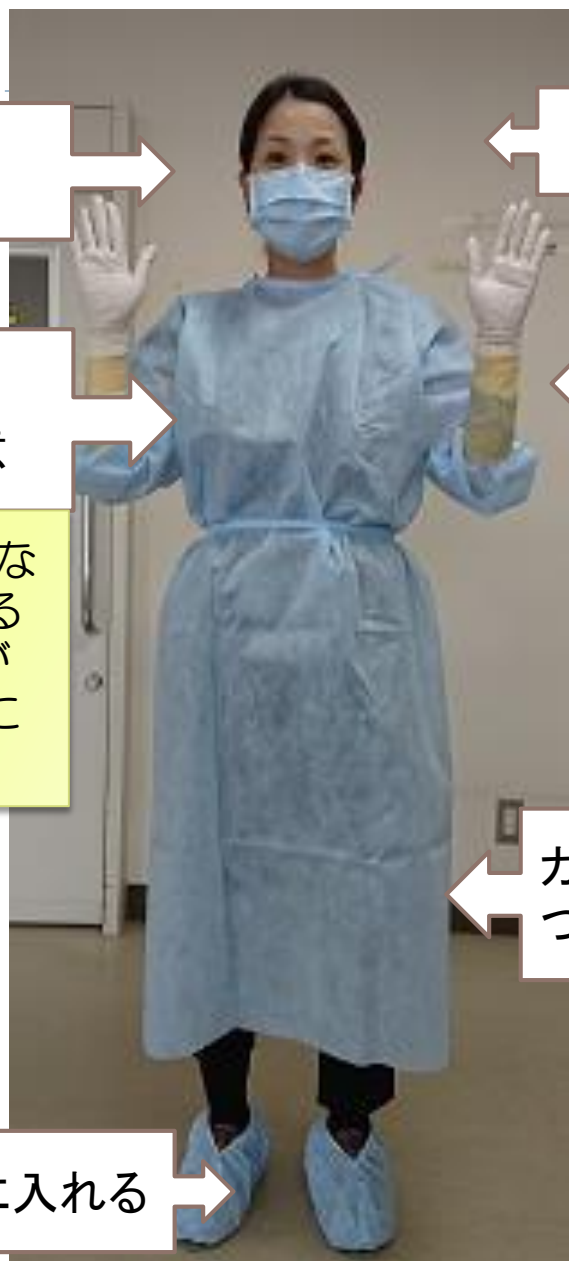
手袋は2枚重ねにし、
手首が出ないように注意

時計や指輪は外す

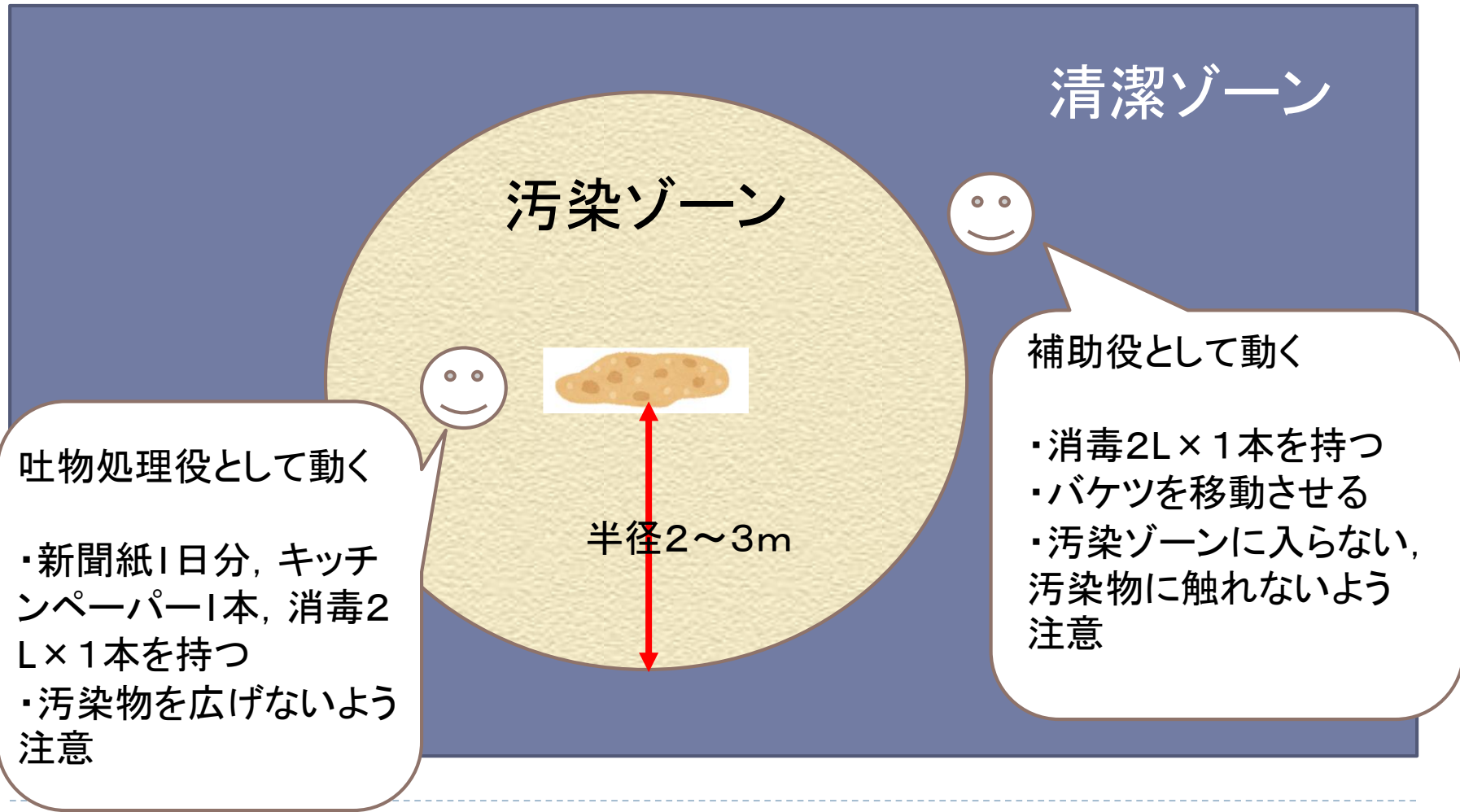
(一言メモ) 手袋には小さな
穴が開いていることがある
(ピンホール)ため、自分が
感染しないためにも二重に
して装着する

ガウンの裾はかがんだ時に床に
つかないように、広がらないようにする

靴紐はカバーの中に入れる



2人で処理する場合は、汚染ゾーン担当者と 清潔ゾーン担当者を分けて処理します



バケツにビニール袋(大2枚)を 二重にして清潔ゾーンに置きます



- ・汚染防止のため、袋の縁は内側に巻き込みます。
- ・外側ビニール袋の縁は内側ビニール袋の縁より長くして汚染を防ぎます。
- ・消毒液を吸った紙の重みで、ビニールの端がバケツの内側に入り込む危険性があります。しっかりとバケツに袋をセットしましょう。

吐物が周囲に飛び散っている場合は、新聞紙を敷きながら近寄り、吐物を新聞紙で覆います

吐物からノロウイルスが浮遊・飛散しないために覆います



新聞紙を縦に3枚並べると約2m

吐物と同量の消毒液を静かにそそぎます



この後に消毒するため、先に吐物を取り除きます。

・次亜塩素酸ナトリウムの量と水の量の目盛りをつけておきましょう

・ジョーロ型のキャップも市販されています



外側から中心に向かって吐物を取り除き，ビニール袋（小）に入れて袋を縛り，バケツに入れます



吐物により，手を激しく汚染した場合は，手袋を交換しても良いでしょう

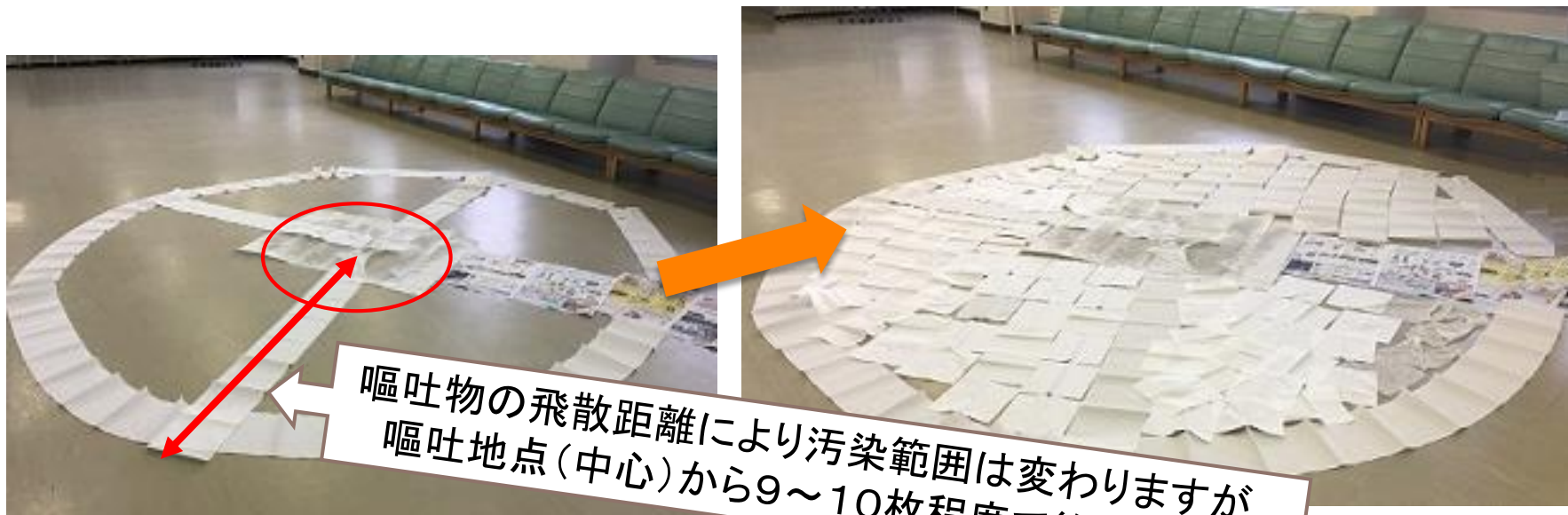


嘔吐物を取り除いた後、キッチンペーパーを敷いて消毒液を浸し、10分おきます

ここで消毒！
・ペーパーに消毒液を十分浸す
・10分おく
がポイントです



汚染した範囲にキッチンペーパーを敷き詰めます



キッチンペーパーの

【メリット】

- ・消毒液が浸りやすい
- ・ロールでつながっているので扱いやすい
- ・ゴミの量が少ない
- ・消毒液を吸っても軽いので、集める作業は新聞紙よりは楽にできる
- ・面積を把握しやすい



【デメリット】

- ・一枚の面積が小さいので敷き詰めるのが大変
- ・ぬれるとちぎれやすい

敷き詰めたペーパーに消毒薬を振りかけ 十分に浸し、10分おきます

清潔ゾーンに
いる補助役は、外
側から消毒液を
撒きましょう



処理役は、汚染ゾーンで靴カバーを脱ぎながら 清潔ゾーンに出ます



靴カバーを脱ぐ時は、汚染された手袋(指)をカバーの内側に入れないように注意。

外側を持って外しましょう

吐物で汚染された上の手袋を脱ぎます



内側の手袋を汚染しないように、外しましょう

**外側から内側へ折り込むように拭き取りながら
汚染ゾーンを消毒していき、拭き取った後は水
拭きをします**



消毒したペーパーを入れ、
水拭きをした後は、
内側のゴミ袋の口をしぼります

**使い捨て手袋→ガウン→マスクの順で
外し、一緒に廃棄します。**



脱ぐ動作の際に、自分自身を
汚染させないように、注意しましょう。

終わった後は石けんで正しい手洗いを



厚生労働省「手洗いの手順リーフレット」